

クロフネツツジ

Rhododendron schlippenbachii Maxim.
(ツツジ科)



淡い緑の葉が輪生状に展開すると共に、枝先につく1個の花芽に径6cmとやや大きい花を3~6個散形状に咲かせます。花冠は淡い桃色または白色の漏斗形で先端部は5つに裂け上部の裂片の内側には赤い斑が見られます。雄蕊は10本。優雅さが漂います。

「ツツジの女王」と呼ばれることにも納得がいきます。

中国東北部、ロシア極東部および朝鮮半島に自生する樹高1~4.5mほどの落葉低木。特にお隣り韓国では「 Cholchuk (철쭉) 」

と呼ばれ、江原道、光州広域市、議政府市など多くの自治体でその自治体を象徴する花として制定されています。

江戸時代初期の1668年に朝鮮半島から渡来した黒船と呼ばれる外国船によって日本に導入されたことにより「クロフネツツジ」と呼ばれます。

現在、日本国内で販売されているものは、全て実生から栽培したもので丈夫で栽培しやすく、実生だと約8年で開花します。

(東京農大農学部植物園 伊藤健)

新・実学ジャーナル

2016年5月号 No.130

2016年5月1日発行

編集・発行 学校法人東京農業大学戦略室
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
TEL. 03-5477-2300 FAX. 03-5477-2707
<http://www.nodai.ac.jp/hojin/>

定期購読ご希望の方は上記までご連絡ください。

2016 東京農大創立125年

学校法人 **東京農業大学**

東京農業大学 東京情報大学 東京農業大学短期大学部
東京農業大学第一高等学校 東京農業大学第二高等学校
東京農業大学第三高等学校 東京農業大学第一高等学校中部
東京農業大学第三高等学校附属中学校